

# 東京大学地震研究所技術研究報告

## 原稿作成要領

技術研究報告編集委員会  
2023年2月1日

提出する原稿は、技術研究報告編集委員会ウェブサイト ([https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/gihou\\_web/](https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/gihou_web/)) の投稿案内から「原稿フォーマット」をダウンロードし、本要領にしたがって作成してください。

### 1. 全般

- (a) 原稿はA4版紙を用い、表題(1頁目)、要旨(論説・総説の場合;2頁目)、本文、文献、脚注、図表の説明、図、表の順に並べて、右下隅に通しの頁番号、左余白に通しの行番号をつけてください。
- (b) 原稿は横書きとし、上部に3.5cm、下部に3.0cm、左右端に3.0cm程度の余白を取ってください。ただし図・表の頁はこの限りではありません。
- (c) 和文原稿の場合は1行40文字、1頁36行です。英文原稿の場合は文字数・行数共自由ですが、読み易さに留意してください。
- (d) 和文原稿の句読点には「、」（全角コンマまたは半角コンマ+半角スペース）、「。」（全角ピリオドまたは半角ピリオド+半角スペース）を使用してください。「、」や「。」は用いないでください。また、和文原稿の括弧には、固有名詞等の特別な理由がない限り、原則として「（」（全角括弧）と「）」（全角括弧）を使用してください。
- (e) 年月日や測定値などはアラビア数字を用いてください。また、英数字は半角にしてください。

### 2. 表題

- (a) 表題と著者名を和文と英文で記入してください。
- (b) 表題頁の下部に責任著者のeメールアドレス、および和文と英文による著者の所属を明記してください。

### 3. 要旨

- (a) 論説および総説の場合は、英文要旨と英文キーワードを記入してください。本文が英文の場合は和文要旨もつけることができます。和文要旨は文献の後につけてください。
- (b) 英文キーワードは、論文中から内容を的確に表現できる5つ以内の単語または句を選んで、できるだけ名詞形で表してください。

### 4. 本文

- (a) 文献を本文中で引用する場合は、以下のように著者名と発行年を記入してください。
  - (イ) 著者が1名の場合：  
東原(1999)によれば...  
...by Higashihara(1999)
  - (ロ) 著者が2名の場合：  
...と記されている(東原・渡辺, 2000).  
...(Higashihara and Watanabe, 2000).
  - (ハ) 著者が3名以上の場合：  
...と考えられている(東原ほか, 2000).  
...(Higashihara *et al.*, 2000).
- (b) 備考や注は、<sup>1)</sup>, <sup>2)</sup>のような番号を該当する文の右肩に付け、「脚注」と明記した別紙にその当該ページおよび説明を列記してください。

### 5. 文献

- (a) 文献表は著者名アルファベット順・発行年順とし、発行年は著者のすぐ後にコンマで括弧に入れてください。同一著者で発行年も同じ場合は、1999a, 1999bのように年に続けて英小文字を添えてください。
- (b) 1つの文献が2行以上にわたる場合は、2行目以降の行頭を1字分下げてください。
- (c) 書籍を引用する場合には、著者名または編集者名、出版年、書籍タイトル、出版社、総頁数の順で記述してください。ISBNが付加されている場合には、最後に付記してください。また、書籍の一部(特定の章や論文)を引用する場合には、著者名、出版年、章や論文タイトル、書籍タイトル、編集者、出版社、該当頁数(開始-終了)の順で記述してください。ISBNまたはDOIが付加されている場合には、最後に付記してください。
- (d) 科学雑誌に掲載されている論文の場合には、雑誌名(英文の場合は斜体で)、巻数、号数、ページ数(開始-終了)を記述してください。ただし、巻数または号数が設定されていない場合には省略が可能です。論文番号で管理されている論文の場合には、ページ数の代わりに論文番号を記述してください。また、DOIが付与されている場合には、そのURLを最後に付記してください。古い論文にも後日付与されている場合がありますので、必ずご確認ください。

- (e) 学会等での発表の場合には、予稿集やアブストラクト集の正式名称を記述し、続けて発表番号を記述してください。また、ウェブサイト上で pdf 等として公表されている場合には、その URL とサイトを参照した年月日も記述してください。
- (f) ウェブサイト等から引用する場合は、著者名、サイトの更新年、タイトル、URL、サイトを参照した年月日の順で記述して下さい。著者が不明な場合は、ウェブサイト名、サイトの更新年、URL、サイトを参照した年月日の順で記述してください。サイトの更新年が不明な場合は省略が可能です（本文中で引用する際、年は省略してください）。
- (g) 和文原稿の場合は、和文文献は和文、英文文献は英文でそれぞれ引用してください。

[和文原稿の文献記述例]

阿部勝征, 1991, 余震の確率予報, 地震 第2輯, vol. 44, p.145-146, [https://doi.org/10.4294/zisin1948.44.2\\_145](https://doi.org/10.4294/zisin1948.44.2_145).

Brownlow, A.H., 1995, Chapter 2 Isotope Geology, Geochemistry 2nd ed., Prentice Hall, p.51-118, ISBN : 978-0133982725.

古村孝志・B.L.N. Kennet, 2017, 地殻内地震の PL 波がもたらす大振幅の長周期地震動, 日本地震学会講演予稿集 2017 年度秋季大会, S15-18, <https://www.zisin.jp/publications/pdf/2017yokousyuu.pdf> (参照 : 2023-02-01).

技術研究報告編集委員会, 2022, 東京大学地震研究所技術研究報告 投稿案内, <https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/GIHOU/doc/submission.pdf> (参照 : 2023-02-01).

松山澄子・山中佳子・瀬川眞佐子, 1998, EIC システムのユーザー向け情報教育とその成果, 東京大学地震研究所技術研究報告, no. 2, p.8-12, <https://doi.org/10.15083/00032277>.

Honkura, Y., S. Koyama and T. Yoshino, 1980, Surveys of the geomagnetic total intensity in Tokai district (1) : Secular Changes during the Period from 1971 to 1978, *Bulletin of the Earthquake Research Institute, the University of Tokyo*, vol. 55, no. 2, p.449-481.

Kudo, K., 1980, A study on the contribution of surface waves to strong ground motions, *Proceedings of the 7th World Conference on Earthquake Engineering*, vol. 2, p. 499-506, [https://www.iitk.ac.in/nicee/wcee/article/7\\_vol2\\_499.pdf](https://www.iitk.ac.in/nicee/wcee/article/7_vol2_499.pdf) (参照 : 2023-02-01).

Mendoza, C. and S.H. Hartzell, 1988, Aftershock

patterns and main shock faulting, *Bulletin of the Seismological Society of America*, vol. 78, no. 4, p. 1438-1449, <https://doi.org/10.1785/BSSA0780041438>.

中川茂樹・加藤愛太郎, 2020, WIN フォーマットデータを ObsPy で読み込む新しいモジュール, 東京大学地震研究所技術研究報告, no. 26, p.31-36, <https://doi.org/10.15083/0002000903>.

Nakata, R., M. Kinoshita, Y. Hashimoto and Y. Yamashita, 2020, Can subducting Kyushu-Palau Ridge weaken Hyuga-nada subduction interface, western Nankai Trough : A Proposal to IODP, *Abstracts of JpGU-AGU Joint Meeting 2020*, MIS11-16.

Oláh, L., H.K.M. Tanaka, T. Ohminato and D. Varga, 2018, High-definition and low-noise muography of the Sakurajima volcano with gaseous tracking detectors, *Scientific Reports*, vol. 8, 3207, <https://doi.org/10.1038/s41598-018-21423-9>.

佐竹健治, 2012, 第2章 どんな津波だったのか—津波発生メカニズムと予測, 東日本大震災の科学, 佐竹健治・堀 宗朗編, 東京大学出版, p.41-70, ISBN : 9784130637107.

杉本智彦, 2022, カシミール 3D Ver. 9.3.9, <https://www.kashmir3d.com> (参照 : 2023-02-01).

東京大学地震研究所ウェブサイト, <https://www.eri.u-tokyo.ac.jp> (参照 : 2023-02-01).

東京大学地震研究所ウェブサイト, 強振観測データベース, <https://smsd.eri.u-tokyo.ac.jp/smad/ja/top/> (参照 : 2023-02-01).

宇津徳治, 1984, 地震学 第2版, 共立出版, 310p., ISBN : 9784320002166.

- (h) 英文原稿の場合は、和文文献の引用も英文（訳）とし、最後に (in Japanese) を付記してください。ただし、論文等の和文文献に英文のアブストラクトがある場合には、(in Japanese with English abstract) としてください。

[英文原稿の文献記載例]

Ansari, S., 2021, NOAA's Weather and Climate Toolkit, <https://www.ncdc.noaa.gov/wct/index.php> (accessed : 2023-02-01).

Sekiya, H., 1976, The seismicity preceding earthquakes and its significance to earthquake prediction, *Journal of the Seismological Society of Japan Second Series*, vol. 29, no. 3, p.299-311, [https://doi.org/10.4294/zisin1948.29.3\\_299](https://doi.org/10.4294/zisin1948.29.3_299) (in Japanese with English abstract).

Watanabe, A., T. Ohminato and M. Takeo, 2017,

Installation of a seismic and infra-sound station on the Nishinoshima volcano, *Technical Research Report, Earthquake Research Institute, the University of Tokyo*, no. 23, p.1-9, <https://doi.org/10.15083/00074442> (in Japanese).

## 6. 図・表

- (a) 図・表は明瞭なものを用意してください。写真は図に準じて取り扱います。
- (b) 図・表の刷り上がりの大きさは最大で幅が8cm（1段組分）もしくは17cm（2段組分）のいずれかになることに留意し、図表中の文字や記号などが1mm以下にならないようにしてください。
- (c) 図・表には、和文原稿の場合は図1, 図2, および表1, 表2, 英文原稿の場合はFig. 1, Fig. 2, およびTable 1, Table 2のように通し番号をつけてください。
- (d) 原稿中の図・表は原則として、1頁に1図または1表を貼り付けてください。図・表の下には図表番号と説明を記し、頁下部には第一著者名、題名を記してください。
- (e) 刷り上がり時の図・表の大きさの指定が必要な場合は、図・表の頁にて指定してください。ただし、刷り上がり後の体裁その他の事情によっては著者と相談のうえ編集委員会がこれを変更することがあります。
- (f) カラー印刷を希望する図・表は、図・表の頁にて「カラー印刷希望」と記してください。ただし、カラー印刷を採用するかどうかは、編集委員会が最終的な決定をします。
- (g) 折込図面、その他特殊な印刷・製本様式が必要な場

合は、編集委員会に相談してください。

- (h) 図・表の説明は、各図表頁の図・表の下に記すとともに、番号順に列記したものを文献の後ろに付してください。

## 7. 最終原稿の提出

- (a) 査読により原稿が受理された場合、印刷用の最終原稿を改めて提出していただきます。原則として電子ファイルでご用意ください。
- (b) 本文は、テキスト形式のような編集可能なファイル形式(Microsoft Word(.docx), リッチテキスト(.rtf), シンプルテキスト(.txt)など)で提出してください。「原稿フォーマット」の使用を推奨します。LaTeX形式やPDF形式のみでの提出は不可とします。
- (c) 「原稿フォーマット」を用いない場合には、プリントアウトした最終原稿も合わせて提出してください。太字(ゴシック)は「下線を波線で朱書き」、斜体(イタリック)は「下線を直線1本で朱書き」、上付き文字は「文字を朱書きの『V』で囲む」ことにより指定してください。  
(例) 太字 : □□□□. 文字を太字にする  
(例) 斜体(イタリック) : □□□□. 文字を斜体にする  
(例) 上付き文字 : □□□□. 文字を上付きにする
- (d) 図・表・写真・グラフは、解像度が十分ある画像形式(JPEG, EPS, TIFF, BMP, GIF, PNGなど)の個別ファイルで提出してください。なお、Microsoft WordやMicrosoft Excelファイルでの表も提出可能ですが、そのままの状態では画像に変換されるので、フォントや行間の調整は行われません。よって掲載可能な状態に編集したうえで提出してください。

以上